あおやましんめい 青山神明遺跡(本発掘調査B)

所 在 地 西春日井郡豊山町大字青山字神明地内 (北緯35度15分42秒 東経136度54分36秒)

調 査 理 由 愛知県基幹的広域防災拠点整備事業

調査期間 令和6年2月~3月

調 査 面 積 4,000 ㎡

担 当 者 鬼頭剛・川添和暁・酒井俊彦・宮腰健司



調査の経過

調査は愛知県防災安全局による広域防災拠点(調整池)工事に伴う事前調査として、愛知県県民文化局を通じた委託事業として実施した。調査区は県営名古屋空港の約0.6 km 西にある。調査面積は4,000 ㎡で、調整池に関わる23D区、幹線水路に関わる23E区を東西方向に細分して調査を行った。

立地と環境

遺跡は、小牧市および春日井市から連なる上部更新統がつくる低位段丘上に立地する。 調査地は段丘の南端にあたり、段丘上を流下する大山川と中江川とに挟まれた堤間湿地 内にある。標高は 9.5m ~ 10.5m である。

調査の概要

調査対象地では、23D 区の中央から西と北西へ向けて地表の標高が次第に低くなるにつれて、遺跡地下の基盤層となる礫層の現れる深度が地表と同じように深くなり、遺跡の北を北東から南西方向に流下する中江川の河岸地形の影響を受けている。一方、23E 区の南東や 23E 区に向かうに従って地形標高が高くなると共に、遺構の密度や遺物の出土量が多くなる。出土する遺物は調査対象地の北西では中世陶器が、東や南東では古墳時代前期に比定される土師器の鉢や中世陶器・近世磁器が出土する。

(鬼頭 剛)



調査区位置図 (1/4,000)